

# 学校法人 早稲田電子学園 東京デザインテクノロジーセンター専門学校 学校関係者評価結果

【平成28年12月10日実施】

平成27年度自己点検自己評価(平成27年4月1日～平成28年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	3		<p>学校法人早稲田電子学園 東京デザインテクノロジーセンター専門学校は、滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッション(使命)としている。</p> <p>「3つの教育理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)を実践し「4つの信頼」(①業界からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③学生・保護者からの信頼 ④地域からの信頼)を得られる学校を目指している。</p> <p>教育理念に基づき、東京デザインテクノロジーセンター専門学校は、『産学協同教育を教育の核とし、日本の「ものづくり」精神を持つ世界に通じる「即戦力」となり得る人材育成」を目的として学校運営をしている。</p> <p>業界を取り巻く社会環境は常に変化しており、その変化に対応しうる人材として、専門技術はもちろんのこと、社会人基礎力、コミュニケーション力、ホスピタリティー語学力など、より付加価値の高い人材を育成するべく、キャリア教育の充実をさらに図っていく。</p>	<p>「滋慶学園グループ」は、昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置している。本校も「3つの教育理念」(実学教育、人間教育、国際教育)を実践することで、「4つの信頼」(業界からの信頼、高等学校からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を得ることをコンセプトに掲げ、業界に必要な人材を業界と共に育成している。</p> <p>スペシャリストが求められる時代に即し、業界に必要な人材を業界と共に育成する専門学校として、即戦力となる知識・技術・現場力を教授しています。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように、業界のご協力の基、教育カリキュラムを実践している。</p> <p>キャリア教育の一環として、開校以来、「今日も笑顔で挨拶を」を標語に掲げ、ホスピタリティー、コミュニケーション力、リーダーシップが取れる対人スキル等を身に付け、同時にプロ・社会人としての身構え・心構え・気構えを育成している。</p>	3・2・1	<p>掲げている3つの建学の理念の実践の他、4つの信頼を得られるようにとの運営、取り組みはとても素晴らしいと評価できる。(宮下氏)</p> <p>教育理念からの人材育成像まで明確に打ち出されており、一貫通貫した揺らぐことない理念が素晴らしい。(佐藤氏)</p> <p>昨今、専門学校がする中で少子化がかなり深刻な問題となっている中、揺らぐことのない教育理念を持っており、オリジナルなブランド力を作りあげ、他校との差別化が出来ている。(今西氏)</p>
	1-2 学校の特徴は何か						
	1-3 学校の将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3		<p>滋慶学園グループの示す、毎年の長期・中期・短期展望を基に、滋慶学園COMグループに属する各学校が、事業計画を毎年作成している。この事業計画書が各学校における運営の核となるものである。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ている。それを受け、学校では事業計画を全教職員への周知に努めている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々について明確に明記されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行っている。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、確認を図っている。</p>	<p>事業計画書は、広報・教務・就職・総務と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解するように努めている。学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムの構築を図るよう努めている。</p>	3・2・1	<p>事業計画書にて長期・中期・短期的に計画を立て、職員全体に周知している体制がとれているのは、評価できる。実際に職員全体に周知できる仕組みがあるといい。(今西氏)</p> <p>しっかりと事業計画書で広報・教務・就職・総務とそれぞれについて目標、役割について考えられており、学校全体として同じベクトルに向いている体制は素晴らしい。(戸倉氏)</p> <p>しっかりとした理念のもと、運営されていることがわかった。(笹井氏)</p> <p>個人個人の目標設定や各業務の落とし込みまで出来ていることは評価する。(板見谷氏)</p>
	2-5 事業計画は定められているか						
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか						
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか						
	2-8 意思決定システムは確立されているか						
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか						

<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>職業人教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学協同教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界に必要な人材を業界と共に育成、輩出できるようにしている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、教育部会等で研究、見直し等を行っている。カリキュラムは学科に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価、講師会など各種研修・勉強会を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。また、必要な教員を確保できるよう、総合的に努めている。</p> <p>成績評価の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格取得に向け、支援を行っている。</p>	<p>本校は、教職員の最終目標として、 1. 就職率 100% (就職希望者) 2. 退学率 0% (入学者全員卒業) を掲げ、その達成のために様々なシステムを構築している。</p> <p>本校の教育の柱である「産学協同教育により、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につける。企業プロジェクトでは、商品化を前提としたプロジェクトに取り組み「実践力」を身に付ける。また業界研修、海外実学研修、特別ゼミ、キャリアセンターなどを充実させている。</p> <p>国際性を高めるため、日本人学生には英語授業、留学生には日本語授業をカリキュラムに取り入れ語学教育に積極的に取り組むと共に、海外研修内容の充実を図っている。また、将来の就職に有利な資格取得にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>キャリア教育の一環として行なわれる、入学前の自己発見→入学後の自己変革→卒業後の自己確立という、自己3段階教育の実践。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たし、プロの職業人としての気構え・身構え・心構えを身に付けさせることに取り組んでいる。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>毎年業界の動向に合わせて変化に対応したカリキュラムは素晴らしい。また特に入学前から考えているところがいい(板見谷氏)</p> <p>教育の資質の向上の為に講師会や勉強会、研修会を行っている制度は、評価出来る。(板見谷氏)</p> <p>「産学協同教育システム」で業界の最前線の知識、技術、同行を把握することが出来るシステムは、評価できる。特に企業とのプロジェクトは実に実践的である。(河崎氏)</p> <p>資格検定について、学校からの指導とサポート体制についてもっと告知し、ホームページ等でアピールしてもいいのではないか。(鷲頭氏)</p> <p>就職に関して、卒業後の転職や再就職のサポートが充実しているところは評価できる。卒業後の卒業生達の情報把握が今後必要。(河崎氏)</p> <p>キャリア教育に関して、就職させるだけでなく自己確立を目指すサポートは素晴らしい。(戸倉氏)</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>2</p>	<p>滋慶学園グループのミッションである「職業人教育を通して社会に貢献する」を達成するための教育成果を定数目標として設定している。</p> <p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、希望者全員就職、中途退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、「絶対就職」を標語に掲げ、就職希望者全員が就職達成できるようサポートを行っている。また、専門就職を第一に考え、専門就職率の向上に取り組んでいる。</p> <p>退学率の低減対策は、開校以来、様々な取り組みと努力を重ね、中途退学者の削減に努めている。今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々をさらに図り、退学率0%達成に向け、努力を継続していく。</p> <p>在校生・卒業生の実績やコンテストへの入賞、商品化や参加作品などについては、担任への報告や面談や卒業生のネットワークを活用して把握に努めている。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、専門就職率が向上しているが、100%を達成すべく、さらに努力を続けている。</p> <p>企業との連携・プロジェクトの充実・サポート制度などの確立に努力をしている。また、全員の学生に夢・目標達成をサポートできるよう、就職希望者率の向上や卒業後の就職サポートの充実を図っている。</p> <p>本校では、留学生の就職に対しても日本語力の向上、資格取得、ポートフォリオ作成サポートを徹底して行っている。</p> <p>退学率では、目標に向けたカウンセリングの強化、進路変更対応、学費対応、保護者会の充実、講師の方々や学生が抱える問題の共有など、学生個々に対応できるよう務め、退学率軽減の努力を重ねている。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>毎年秀な人材をクリエイティブ業界に送り出していると評価できる。(佐藤氏)</p> <p>全員の学生を第一専門職に就職させるフォローを引き続き続けて欲しい。(河崎氏)</p> <p>色々な環境の違う学生がいるとは思いますが、中途退学者0名を目指して色々なサポートを続けて欲しい。(鷲頭氏)</p> <p>産学協同のプロジェクトの中で技術的に学んでいくという事もあるが、学生自身が世間に対して挑戦する感覚を持ちながら勉強することが凄く良い。意識の面で凄くメリットがあると感じている。(宮下氏)</p> <p>今御校でやられているような教育を何々教育、何々就職サポートみたいな新しいブランドスローガンをもってもいいのでは。(今西氏)</p> <p>IT関係の業界は日進月歩で、常に新しい技術が常に求められる大変な業界だがしっかりと就職の成果を出していると評価できる。(戸倉氏)</p>

<p>5 学生支援</p>	<p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>学生が目標を達成するための支援には、学業面と生活環境などを整備していくことで支援に繋がると考える。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。</p> <p>①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携を取りながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。また、保護者との連携や卒業サポートも行っている。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>③学生生活については、担任制により行うが、それ以外にもSSC(チューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。また、学生の課外活動であるサークル・同好会についても支援し、学生満足度アップに貢献している。学生寮も学園の専用の寮を整備しており、寮長と担任とが連携して学生を支援している。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「一人ひとりの学生を大切に」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。卒業生のサポートも実施している。</p> <p>「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、教育支援体制を確保している。</p> <p>また、精神的に授業についていけない事情を抱えた学生を支援するため、SSCを設置し、卒業までサポートできる体制を構築している。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>コンセプトで「一人ひとりの学生を大切に」という学生第一主義の学生支援体制は、評価する。(笹井氏)</p> <p>学生支援に対して、しっかりと①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で担当部署を立てているのは安心出来る。(笹井氏)</p> <p>学生の健康面のサポートして心のサポートはSSC、身体のサポートは慶生会クリニックの診療を受けられるとういのは、かなりのメリットと感じた。(浅野氏)</p> <p>学生生活だけではなく、学費についてもサポート巫聖を背呈しているところは素晴らしい。また学園専用の寮も整備されており連携してサポートしているところも評価。(宮下氏)</p>
<p>6 教育環境</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要と考え、その充実を図っている。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外の環境(インターンシップ、学外実習、海外実学研修)もさらに整備することも必要であるが、現状ではキャリアセンター、教務部、滋慶国際交流COMが一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。</p> <p>本校では、教職員が常に防災を意識しており、毎年、教職員、学生の防災訓練を計画的に実施し、地震や火災の際の避難経路を確認するなど、防災体制の確立に努めている。</p>	<p>業界に必要な人材を業界と共に育成するためには、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、それゆえ、最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っている。学外教育環境も教務部、キャリアセンター、が中心となり整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p> <p>教職員対象の防火訓練、教職員・学生対象の避難訓練を毎年実施し、災害に備えている。そのため、マニュアルを整備し、教職員の役割分担作成・確認、学生への情報提供など、体制は整備されている。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>毎年、機材やソフトのアップデートや更新が大変だが、業界の環境に対応しており学生が学ぶ環境は、しっかりと整っている。(宮下氏)</p> <p>設備・機材はほかの専門学校と比較しても、非常に充実していると評価できる。(板見谷氏)</p> <p>学外環境として、インターンシップや実習、研修がとても充実しており、教育環境も問題ない。今後さらなる整備を期待する。(戸倉氏)</p>
<p>7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は、東京都専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等)を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。</p> <p>さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考は、「入学選考会議」により、可否を決定する。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。</p> <p>本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。</p> <p>本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>学生募集をする広報活動において、倫理委員会を設置するなど誇大広告にならないようにしっかりと各種媒体で学校内容、教育内容を知ってもらうとする体制は、評価にあたる。また個人情報の取り扱いについても同様。(佐藤氏)</p> <p>体験授業を重要視しており、入学してからのギャップが無いようにしっかりとプログラムが出来ている。(鷲頭氏)</p> <p>しっかりとした入学選考方法で、目的意識を重視した学生を選考している。本心に納得した上で出願してもらうという取り組みや体制は素晴らしいものと評価する。(宮下氏)</p>

<p>8 財務</p>	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p> <p>5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていますと考えている。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立した計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。 平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開の体制は整った。</p>	<p>①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。 短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として将来計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとな離した場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②予算作成の体制作り 実現可能な予算を作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。</p> <p>さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者が予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供している。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>5ヶ年計画で中長期的に事業計画を立てており、制作・実行をしていることを評価する。(浅野氏)</p> <p>予算作成に関しては、滋慶学園本部がチェックする体制、また予算執行については、修正があれば、理事会・評議員会が承認する健全な体制である。(今西氏)</p> <p>今後世の中の時代に対して、さらなるチェック体制を作り強化していった方がいいのではないか。(笹井氏)</p>
<p>9 法令等の遵守</p>	<p>9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p>3</p>	<p>滋慶学園グループ全体の方針として法令遵守を掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会が学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかはつぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査等である。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(滋慶学園COMグループ)</p> <p>滋慶学園グループ、滋慶学園COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは整備できている。</p>	<p>3つ教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業人教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(「学生・保護者からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学園内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。</p> <p>監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査を受けている。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>コンプライアンスにしても、学内で委員会を設置し、コンプライアンスの規定や行動規範・教育・研修の実施等厳しく法令を遵守する取り組みを行っていることは評価に値する。(佐藤氏)</p> <p>定期的な報告を希望する。(浅野氏)</p> <p>地元で消防団担当しておりますので、防火訓練は消防署を通して進んで参加させていただきたいと思っております。AEDの指導もやります。(笹井氏)</p>
<p>10 社会貢献</p>	<p>10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</p> <p>10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p>2</p>	<p>滋慶学園グループの「職業人教育を通じて社会に貢献する」を実現のために3つの建学理念を実践し、「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)を得るコンセプトがあり、この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。</p> <p>滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で、節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも良い評価を頂戴し、「学生・保護者の信頼」に繋がっている。また、高等学校や日本語学校への出張授業やクラブ活動支援等では、高校や日本語学校からの信頼につながっていると考える。</p> <p>ボランティア活動についても学生に奨励している。</p>	<p>本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。例えば、①東京ゲームショウにおける通訳ボランティア ②中学校の職業理解支援等、教職員や学生たちが、それぞれ特徴を活かし、意義のある活動を行っている。</p> <p>その活動が、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「学生・保護者からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がると考えている。</p> <p>今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていくことが必要である。</p>	<p>3・②・1</p>	<p>社会貢献活動として、イベントの通訳ボランティアや中学校の市区業理解支援、日本語学校への出張授業等を行っていることは、評価に値すると考える。(戸倉氏)</p> <p>「地球温暖化防止対策」運動で節電やクールビズ、ゴミ削減・資源有効利用等、学生はもとより保護者からも評価をもらっていることは、素晴らしい。(河崎氏)</p> <p>4つの信頼の中の④地域の信頼として、学生の街高田馬場で地域の活性化に努めてほしい。(笹井氏)</p>